2024年(R6年)
6月
No. 384

ひとはつうしん
hitohatsuushin

(ホームページアドレス)http://hitoha-fukushi.com (メールアドレス)honbu@hitoha-fukushi.com
(題字:石田孝治)

社会福祉法人 ひとは福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

ひとはの周辺でも田植えがすすんでおり、アグリサポートでは苗箱回収が最盛期を迎えています。

さて、田辺農園での梨の袋掛け作業をはじめて、今年で7年目を迎えました。2月に行われた広島県森林整備・農林振興財団主催の農福連携セミナーにて、田辺農園との取り組みについて報告させていただきました。その際に、田辺さんが「高齢者や障がいのある人も働きやすい環境は、誰にとっても働きやすい環境であり、それは事業者にとっても仕事を進めやすい環境です」と話されました。私たちは得意な部分もあれば苦手な部分もあります。それは障がいの有無に関わらず誰にでもあること。それを「障がい者だから」ではなく、当たり前に受け止めてくださり、取り組んでいただけることは本当にありがたいことです。

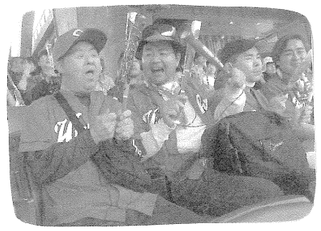
文尚さんがいつもおっしゃられていたこと、「地域と共に協働していく」「ひとはの中だけでなく、外に出て活動していくことが大切」。地域に出て活動させてもらうことにより「一緒じゃね」と思っていただけること。そのことによって少しずつでも環境が変わっていく。そう思います。

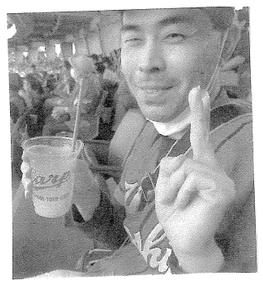
そして、今年度より新たに株式会社クリーンカルチャーにて、ねぎの植え付け作業を始めました。ここでも少しずつ、人間関係もできつつあり、「作業が早くなってきたね」と評価もいただいています。

これから暑くなっていきますので、みんなばてないように気をつけながら頑張りますので、応援よろしくお願いします。

(就労センターあっぷ　城崎高治)

5月11日に作業所から3名、工房から1名のきららとスタッフ計8名でカープ観戦に行ってきました。家族の方からもらったチケットは全事業所で抽選となり、「当たりますように!!」と毎日手を合わせ、当たった後は「カープが勝ちますように!!」と願いを込めていた小野健一さん、行く前からユニフォームと応援グッズを身につけてやる気満々の中尾元気さん、球場でニコニコ声を出し応援していた植田大輔さん、終始笑顔で応援していた中村国慶さん。





観戦に行くのならぜひ勝ち試合を見たいと意気込んで行った試合当日、残念ながら負けてしまいましたが、スタジアムグルメを食べたり、7回にはみんなでカープ風船を飛ばしたり、いつもと違った雰囲気を感じることにより、活動への活力につながったと思います。

次回は必ずリベンジを果たしたいと思います!!

(ひとは作業所　越智修)

「hitohatsuushin」このたび題字に感銘しております
(大分県後援会員　護城孝正)

ひとはの日々

「実録！継続は力なり」

約10年前、作業所のたいようグループでメンテの活動をしていた。長い廊下のモップ掛けはマンツーマンでの作業。一人でモップ掛けができるといいな、と廊下の中央にひもを引っ張り右側通行で、廊下の端まで行ったらUターンする形を作った。その後、私はたいようグループを離れたが、やり方は引き継がれ約8年の歳月が過ぎたある日のこと。その日は何かの事情でひもを引っぱることができなかったよう。何もない廊下をそれぞれがスムーズに右側通行、そしてUターンして戻ってきていた!! 毎日コツコツと取り組んだ結果を目の前にこっそり拍手を送った。

（ひとは工房　蔵下 美穂）

「ニヤニヤ」

遠くから見ていると、木山さんがニヤニヤ。近くへ行き、なんでニヤニヤしているのか様子を見ていると、後ろから「清ちゃん、足の指が痛いのよ～」「寂しくな～い？」と園部夫婦のラブラブ電話が聞こえてきた（園部夫婦は日中、別々の事業所で過ごしている）。

木山さんに「これ聞いてるの？」と聞くと「うん、うん」。
二人のなんとも言えない会話を私も一緒に盗み聞きして木山さんとニヤニヤ。

（ひとは作業所　寺尾 久美子）

「ふたりのコミュニケーション」

納品が終わりアグリへ帰っている車内でのことです。後ろから西崎さんの笑い声が…！何かあったのかと思い、ミラーで後ろを確認したその時、西崎さんの横に座っていた黒田さんが見たことのない変顔を!! 私はびっくり!! つい、私もミラー越しで笑ってしまう程の面白い変顔でした。

2人は仲が良いのか悪いのか… たまにバチバチ… という関係です。そんな2人が普段とは違った形でコミュニケーションをはかっている姿を見て私はとても嬉しく思いました。

（就労センターあっぷ　中村 遥香）

―ひとは40周年を前に―

私が「ひとは」と出会ったのは、戸島にあった小さな作業場。障がいをもった人たちが働ける所で女性スタッフが2・3人おられ、元気で、そしてなにより、とても楽しそうにされていたのが印象的でした。後に知ったのですが、ひとはが一歩を踏み出した頃でした。

縁あって、当時2大イベントだった「ふれあいハイキング」と「人間ホール」にスタッフの一人として関わらせてもらいました。私の場合は、みんなと楽しみたいという単純な理由でした。ひとはの仲間はもちろん、地域の方、ひとはの応援団の方々の熱量は凄く、とにかく何でも全力で楽しんでいました。

「ふれあいハイキング」は、神の倉に登りました。班を組んで、車椅子の人も一緒、皆で団結して頂上を目指します。多い年は800人を超えたそうです。頂上での昼食はむすびボランティアさんの竹の皮にくるんだむすび、やまめの塩焼きやうどんなどもあったと思います。私は、イベントを担当。クイズなど自分のやりたいことを思いっきりやらせてもらいました。最高に楽しかったです。だれもが自分らしく輝いていました。全員が主役であり、そこに障がいの有無は関係ありませんでした。

これからも「ひとは」であり続けてください。

向原町 後援会員　内藤 麻妃

編集後記

編集会議にて、「（平岡）しんさんはエビフライが好きらしい」と順子さんから聞いた次の日、エビフライではないがエビ天が昼食に出てきた。一緒に食べていたスタッフに話をしに行くと「一番に食べられました（手づかみで）」と。食堂がなかった頃、しんさんのお母さんはしんさんの好きなものをお弁当に入れられていたんだそう。（竹内宏美）